

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F118210105602	設置等組名	恐竜学部（恐竜・地質学科（仮称））、生物資源学部（生物資源学科（検討中）、創造農学科（検討中））
大学名	福井県立大学	設置区分	公立	事業計画名	福井県立大学 学部の新設、既存学部における学科の新設（2件）
学校種	大学	都道府県	福井県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	【令和5年度】令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 ①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和5年度） ②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和5年7～9月頃） ③広報活動の実施（令和5年度） ・高校訪問の実施（令和5年7～9月頃）	【令和5年度】令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 ①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和5年度） ②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和5年7～9月） ③広報活動の実施（令和5年度） ・高校訪問の実施（令和5年7～9月）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2（前掲）			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和6年3月 恐竜学部恐竜・地質学科（仮称） 設置認可申請予定 令和6年3～12月 生物資源学部生物資源学科（検討中）、創造農学科（検討中） 学科の設置届出予定	令和6年3月 恐竜学部恐竜・地質学科（仮称） 設置認可申請		
フェーズ1（後掲）	【令和6年度】令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 ①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和6年度） ②学部設置に係る認可申請支障業務委託（届出申請）の実施（令和6年4月） ③進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和6年7～9月頃） ④広報活動の実施（令和6年度） ・各種進路サイトへの掲載（令和6年4月頃）、SNS広告の実施（令和6年7～9月頃） ⑤地域の企業や他機関との連携のための事前調整（令和6年度） ⑥海外発掘調査事前調整（令和6年度）		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	【令和6年度】新学部棟などの整備 ①恐竜学部棟の整備（初年度） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、3階建て） ②生物資源学科（仮称）研究施設改修等（令和6年度） ・場所：福井県永平寺町（永平寺キャンパス内） ③創造農学科（仮称）農産物生産化棟の整備（令和6年度） ・場所：福井県あわら市（あわらキャンパス内）・延床面積：約300㎡		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和7年4月 恐竜学部恐竜・地質学科（仮称） 開設予定（入学生員30人、理学関係） 生物資源学部生物資源学科（検討中） 開設予定（入学生員50人、農学関係） 生物資源学部創造農学科（検討中） 開設予定（入学生員30人、農学関係）			
フェーズ2（後掲）	【令和7年度】新学部棟などの整備 ①恐竜学部棟の整備（2年目） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、3階建て）		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	【令和7～10年度】 ①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →県内の会社等と連携し、県内のフィールドを活用したPBLを実施 →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施、女子学生対象イベントを実施、県内の小中高へ出向き探究学習を実施 ②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和7～10年7～9月頃） ③広報活動の実施 ・各種進路サイトへの掲載（令和7～10年4月頃）、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、SNS広告の実施（令和7～10年4月頃）		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和6年3～12月 70人減員に係る届出予定 令和7年3～12月 40人減員に係る届出予定			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	恐竜学部恐竜・地質学科（仮称）

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学
 該当無し チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
 該当無し チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
 該当無し チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
 該当無し チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
 該当無し チェック

3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	<input type="checkbox"/> 確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック <input type="checkbox"/> 確認の対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる、又は設置等を行った <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時点で、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	恐電学部恐電・地質学科（仮称）

②	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
③	選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十九条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
④	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施でき、その他課題がない場合は限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業との連携について、講師として招くことやインターンシップで訪問することを計画している。また、自治体（県や福山市等）と連携して域内フィールドにおける実習活動の実施や小中高生の探求学習の支援を行う。これに加えて、県が実施する未来協働プラットフォームの推進事業を通じて、地元企業とのPBLや共同研究を実施し、地元産業に即して現場での実践的な学びを行うことを検討する。海外大学との連携として、恐電学部では海外大学や研究機関の教員によるオンラインでの講義を予定している。この講義では、海外発掘調査の最先端の知識や各国の地質学的特徴について学ぶ。また、実際に海外を訪問して、発掘調査や現地での施設見学を行うことも検討しており、発掘調査能力や海外でのコミュニケーション能力の向上を目指す。また、他大学との連携としては、単位互換制度を活用し、連携できる組織を今後も増やしていくことを計画している。本学においては、在学中に県内協定校（7校）において修得した単位が、本学の単位として認定される制度を設けている。この制度を利用して、自身の研究のさらなる発展や課題解決能力の向上が期待できる。	（企業や自治体と連携） 福井県立恐電博物館から恐電学部への協力をR5.1に確認し、「博物館実習」や「恐電学特論」において、博物館で実習や講義を行う。 ・県測量設計業協会や県情報システム工業会から講師派遣による「応用地質学」やインターンシップなどの実践的な学びを行う。 （海外大学との連携） ・タイのオンラインチャット大学附属珪化木鉱物資源東北調査研究所とR5.10に協定を締結し、双方の学生を対象にしたタイでの発掘調査の実習をはじめ、オンライン講義の実施、留学生の相互受け入れなど連携を強化。（地域の他大学と連携した科目） ・恐電学部教員が行う専門科目等16科目を単位互換制度を活用し、県内協定校に開放する予定。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスクリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生確保に向けた取組として、令和4年度に福井県立恐電博物館が実施した「恐電女子学院2022」を挙げることもできる。このイベントでは、恐電など古生物に関心を持つ女子学生（小中高生）21名が恐電博物館に集い、現役の女性研究者などとの交流を通して、自然科学に対する理解を深めた。恐電学部においても、恐電博物館と連携し、博物館来館をきっかけとした恐電への興味関心を育て、恐電→古生物→地球科学へと発展させるようなイベントの展開を予定している。 社会人の受け入れとしては、科目等履修生・聴講生制度を挙げることもできる。平成30年度から令和4年度までの過去5年間平均で、科目等履修生が年間約6人、聴講生が約41人受け入れている。また、入試において、社会人特別選抜や学士編入制度についても検討する。 留学生の受け入れについては、恐電学部では、特別選抜の一つにおいて「私費外国人留学生特別選抜」を行う。入学後については、チューター制度を利用して、留学生1人につき、本学日本人学生1人を付け、履修登録や生活をサポートする。	（女子学生確保に向けた取組） ・R6.2に姫路東高校が主催する女子学生向け S H イベントへ参加し、恐電や地球科学への興味関心を育んだ。（地域の初等中等教育段階の学校との連携） ・恐電学部のキャンパスが設置される鯖江市内の高校への探求学習支援を行った。 （社会人学生の受け入れ強化に向けた取組） ・社会人特別選抜により、社会人の募集を行う計画（留学生の受け入れ強化に向けた取組） ・私費外国人留学生特別選抜により、留学生の募集を行う計画	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	生物資源学部生物資源学科(検討中)

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学
 該当無し チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
 該当無し チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学
 該当無し チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
 該当無し チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
 該当無し チェック

3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

<p>① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 確認を受けている <input type="checkbox"/> 確認の対象に該当しない</p>	
<p>② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	<p>本事業の転換に係る要件「新設学科の基幹教員の構成が、定員減を行う全ての学科とそれぞれ3割以上異なる」を満たすため、教員構成の変更を含む学部再編の学部案について大学内で検討中。</p>
<p>⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑦ 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）</p> <p><input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</p>	<p>本事業の転換に係る要件「新設学科の基幹教員の構成が、定員減を行う全ての学科とそれぞれ3割以上異なる」を満たすため、教員構成の変更を含む学部再編の学部案について大学内で検討中。</p>
<p>⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	
<p>⑪ フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる</p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部/学科名	生物資源学部生物資源学科(検討中)

②	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

③	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十九条の三に規定する助成業務の実施に関する方針(令和5年4月13日文部科学大臣認可)六(2)②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

④	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題(理由)とその対応を記載してください。計画通りに実施できたり、その他課題がない場合も限り記載は不要です。

[A: 連携を通じた教育体制の整備と実施] (連携開設科目等に限らない)

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目(PBL等)の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携(連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等)

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題(理由)とその対応
<p>特任講師として実務者(株)の素(株)、花玉(株)、東洋紡(株)、天野エンザイム(株)、(株)美十)が、専門講義科目である応用微生物学Ⅱや「生体高分子化学」等の講義の一部を担当し、研究開発現場での経験を学生に伝える授業を実施する。また、福井県と連携し、未来協働プラットフォームの推進事業を通じて、R4年度は地元企業によるPBL1件と共同研究5件を実施した。改組後は、既存の取組に加え、情報デジタル関連の課題に関するPBLとして、(株)マネプロと(株)ドラフトの「AIを活用した広告戦略の実践」などの追加を予定しており、地元の魅力や価値を学生が伝わり創出し、地域産業の活性化に寄与することを目指している。こうした福井での生物資源開発研究の内容を通じて、地域についての理解を深めることを目的とする「生物資源学リレー」講座を令和7年度開講し、公開講座として県内他大学にも提供する。海外大学との連携としては、これまで韓国大邱カトリック大学校医療保健大学と学部間交流を継続してきたが、大学間交流に格上げし、交換留学生を募集することを計画している。</p>	<p>R5年度は、現生物資源学科において、株の素(株)、花玉(株)、東洋紡(株)、天野エンザイム(株)、(株)美十から実務講師を招聘し、研究開発現場での経験を学生に伝える講義を実施した。また、「F A A(福井アカデミックアライアンス)学ぶなら福井!」応募事業には6件が採択され、県内企業と連携して実践的な人材育成を行っている。情報デジタル関連の課題に関するPBLとしては、R5に学内に新設した情報センターにおいて(株)マネプロと(株)ドラフトとの「AIを活用した広告戦略の実践」などの取組組みを進めている。関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備に関しては、「暮らしを支える生物資源」を福井県内の大学の共通教養科目としてR7年度に開講予定である。韓国大邱カトリック大学校医療保健大学と学部間交流を継続し、交換留学生の募集を開始した。</p>	

[B: 多様な入学者の確保に向けた取組]

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保(志願者数増)に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携(出張授業の実施等)
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組(リカレント・リスクリングへの対応)
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題(理由)とその対応
<p>入学者選抜については、アドミッションポリシーに基礎学力として目指すを求めた科目として「情報」を追加し、総合的な評価が必要との観点から、高校における探求学習の成果を評価する総合型入試を開始した。女子学生については、現学科では、学生数196名のうち93名(47.4%)であり(R5.5現在)、十分確保できている。地域の初等中等教育との連携については、現学科において、R4実績では、S S Hの指定を付けている県立藤島高校立高志高校に、合計14人の教員を派遣し高校生の研究活動の指導や評価を実施した。キャンパス内外で県内小中学生を対象とした教育活動も実施しており、3月には、県立高志中学校の1年生90人(教諭4人)を受け入れて実習・講義を行い、5月には幼稚園児のイブニングやスマート農業体験も実施した。留学生を受け入れ強化については、大学推薦による国際外国人留学生制度を利用して留学生を受け入れる制度を大学に整備し、R3年度から毎年1名の国際留学生を受け入れている。社会人学生の受け入れに対しては、単位一括認定制度の導入を検討し、学士編入がしやすくなる体制を整える。</p>	<p>R6年度入試において実施した総合型選抜では、2名の合格者が現生物資源学科へ入学した。R6年度に現生物資源学科に入学した1年次生は、51名で、うち32名(62.7%)が女子であった。地域の初等中等教育との連携に関しては、R4年度に引き続き、SSH指定校である藤島高校および高志高校に教員11名を派遣し、高校生の研究活動の指導や評価を行った。また、県立高志中学校の1年生90名を受け入れ、体験学習を実施した。留学生の受け入れ強化に関しては、大学推薦による国際留学生として、博士後期課程の研究生1名を受け入れ、R7年度も、1名の国際留学生(博士後期課程)の受け入れを計画している。学科定員が50名となるため、総合型選抜の定員を3名から8名へと変更し、多様な学生を受け入れる体制を整える計画をしている。また、県内高校への開放講義を増やし、地域の初等中等教育との連携強化を行う。社会人学生の受け入れ強化に関しては、単位一括認定制度の導入に加え、大学院博士後期課程の入試制度を見直し、社会人受験生の受験科目の変更を検討している。</p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	生物資源学部創造農学科（検討中）

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学
 該当無し チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
 該当無し チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学
 該当無し チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
 該当無し チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
 該当無し チェック

3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	<input type="checkbox"/> 確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック <input type="checkbox"/> 確認の対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる、又は設置等を行った <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時点で、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	生物資源学部創造農学科（検討中）

②	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
③	選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十九条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
④	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できたり、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福井県と連携し、未来協働プラットフォームをいっしょに推進事業を通じて、地元企業によるPBL2件と共同研究1件を実施し、地元産業に関して現場での実践的な学びを構築している。PBLの一例として、上記したあわら白炭地特産フルーツを使用したふるくむむフルーツデザ 開発プロジェクトに於いて、「地場産産物を活用した新たな商品開発プロジェクト」では、坂井市、あわら市の地場産産物の生産・流通状況を調査し、トマトソースなど新商品開発に向けた食材や加工法を検討、商品化の提案まで行っている。共同研究として、「越前水仙の品質保持技術の開発」においては、水仙の栽培現場や球根準備などの栽培管理について理解を深め、品質保持試験を実施している。今後は、環境に配慮した堆肥製造についてJA福井およびレンゴウ株式会社とPBLや共同研究を実施する計画である。こうした企業等との連携を通じて、学生自身が自分たちの手で地元の魅力や価値を創造し、地域産業の活性化を目指す。「食の6次産業化プロジェクト～育成プログラム」では、北陸地区の大学で唯一レベル3まで取得可能である。今後、一般社会人が科目等履修生として受講できるよう準備する。	R5年度の取り組み実績および進捗状況については、バイオキャスト社との共同開発により農業資材として販売を開始し、ふるくむフルーツが開発プロジェクトとして、学生実習での取り組みやカフェ森のめぐみにおいてイベントを通じて販売した。また、地場産産物を活用した新たな商品開発プロジェクトであるトマトソースを活用したドレッシングの開発については、クワ醤油との共同開発により商品化に成功（商品名：三里浜ドレッシング）した。さらに、環境に配慮した堆肥製造については、福井県農林水産部、JA福井県、JA越前たけな、レンゴウ株式会社と共同研究を開始するなど、新学科に向けて企業や自治体との連携を進めている。食の6次産業化プロジェクト～育成プログラムについては、レベル3認定者を3名輩出しており、今後、さらに一般社会人が科目等履修生として受講できるよう準備する。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスティングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜については、現学科において、品種改良、農業経営など農学を志望する学生がこれまで主要なターゲットであった。新学科では、農学の知識だけでなくサービス業や食品加工開発など、これまで以上に多様な能力の習得が求められる。そのため、推薦入試、総合型入試、一般選抜前期入試、3年次編入学など多様な入試に加え、一般選抜後期入試の実施を計画している。女子学生については、現学科では、学生数116名のうち55名であり（R5.5現在）、十分確保できている。地域の初等中等教育との連携については、R4実績では、県内の高校2校の課題解決活動授業のモニターなどの協力を得て、8月には「豊女子高等学校グローバルサイエンスコースの生徒15名（教諭3名）」を、3月には、県立高志中学校の3年生30人（教諭2人）を受け入れて実習・講義を行った。今後も、地域の中高校への出前講座や探求学習の支援を通じて、多様な入学者の確保に努めていく。社会人学生の受け入れについては、3年次編入学を新たに学士編入学試験として実施し、リカレント・リスティングへの対応を施していく計画である。	入学者選抜については、現創造農学科の活動実績を振り返り、教育研究内容、学生募集・入試方法など学年完成後の新学科の方向性を検討し、R5年度は一般選抜において後期日程を導入した。地域の初等中等教育との連携については、現学科では、高校に出向くための出張講義や入試説明会の実施、オープンキャンパスの拡充、収穫祭を通じて、研究活動状況と研究の面白さを中高生に伝え、科学に興味を持ち研究志向の学生の入学増につなげることができたり、新学科でも拡充している。社会人学生の受入れ強化に向けた取組については、R8年度から3年次編入学を新たに学士編入学試験として実施し、リカレント・リスティングへの対応を行う予定である。	

大学名	福井県立大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	430	430																		
		入学者数	人	469	493																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	430	430																		
		入学者数(B)	人	469	493																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.09	1.15																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	1670	1700																		
		編入学定員	人	10	10																		
		在籍者数(D)	人	1839	1886																		
		編入学者数	人	7	4																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.10	1.11																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定-1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		165,121	124,084	204,067	192,453	357,213	319,466													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	187,214
本事業による助成金の額(F)	千円	699,500
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	204,701

特記事項

--